

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201496		
法人名	株式会社 サポート		
事業所名	サポートピア 花水木		
所在地	〒857-0832 長崎県佐世保市藤原町5番1号 (電話) 0956-34-8251		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月23日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(H19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有()円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:85%を10年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 フジイ内科胃腸科医院	医療法人 太田歯科診療所
---------	-----------------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長は、ホームで働く職員の尊敬を一身に受けながらも、驕ることなく職員と一緒に日々の業務をこなし、一方では、地域や同業者の相談・指導要請に奔走されている。又、ホーム職員の才能・向上心の発掘・育成で職員の資格取得と自信に繋げた支援をされており、職員の笑顔と自信に裏打ちされたゆとりの介護が入居者のホーム生活に反映されている。心を通じた【受容と共感】に繋がるバリレーションワーカーの資格を有する職員も誕生し、職員の層の厚さが感じられるホームであり、入居者の個性が言動を通して伝わってくる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目をホームとして更に掘り下げた分析をされ、期間、目標設定、計画内容など改善計画シートに挙げられ取り組みの最中である。緊急時の対応は、入居者の疾病などに対する学習の取り組みや入居者別に想定される予知・予測の職員間の情報の共有など職員の段階に応じた学習の取り組みでケアの統一とチームケアを目指され実践に繋がられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長及び職員は、自己評価・外部評価を業務内容の見直しと確認作業として真摯に受け止められており、今回も全職員で取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、ホームの年間行事計画や取り組み状況、直面している問題など様々な情報を報告・相談されている。卑近の例ではホーム脇の土砂崩れの話から、通路の補修などを通して、ホーム内外の環境整備計画と施行までの段取りやボランティアとしてのホームとの関わりなど、自治会役員の知恵と協力を得ることができ、改めて地域ネットワークの重要性を実感されている。今後は、運営推進会議メンバーも固定化せず地域福祉などに意欲や興味のあられる方には参画いただけるような環境づくりでメンバーの輪を拡げて生きたい意向を持たれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	同意を得る書類への相談・苦情の窓口などの記載はもちろんのこと、意見箱の設置や機会ある毎の声かけなど取り組まれていると同時に、家族の伝えにくい心情も十分理解されている。そこで、苦情がないことに満足されることなくサービスの向上を目指して着眼されたのが外部評価の家族アンケートである。調査機関で受託している事業所の全てのアンケートを一括して統計・分析した結果をフィードバックしてもらいたい意向と運営への反映を熱心に伝えられた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	訪問当日もエプロン姿の自治会婦人部長が職員と一緒に厨房で腕を振るい食事作りに参加されていた。運営推進会議開催以降、自治会役員を中心にホームへの関心・協力が高まり地域との密着した連携に拍車がかかっている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で地域密着型サービスを意識した理念の見直しをされ、【ゆったりと楽しく、自由にありのままに、なじみの環境で】のこれまでの理念に【地域と共に】の言葉を文末に挿入されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回の会議で『どういった形のケアサービスをするのか』理念に照らし合ながら、ケアの実践に向けた話し合いや意識付けの取り組みが日々の実践に反映されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して地域の方の知恵と力を得ることができ、改めて地域ネットワークの重要性を実感されている。ホーム内外の環境整備計画と施行までの段取りやボランティアとしてのホームとの関わりなど、自治会役員を中心に親身な活動・協力を得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長及び職員は、自己評価・外部評価を業務内容の見直しと確認作業として真摯に受け止められている。前回の改善項目もホームとして更に掘り下げた分析をされ、期間、目標、計画内容など改善計画シートに挙げられており、取り組み中である。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の開催で10月下旬に3回目を予定されている。運営推進会議メンバーも固定化せずに、地域福祉などに意欲や興味のある方には参画いただけるような環境づくりで、メンバーの輪を拡げていきたい意向を持たれている。		

サポートピア 花水木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラー設置に伴う補助申請手続きなどの回を重ねた話し合いで垣根が低くなったことを実感されている。市へのアプローチと協働した取り組みに意欲を持たれており、卑近の例では、8月に保健所の「グループホームの食中毒対策と感染予防の意識調査」に、グループホームの実態調査モデル事業所として協力されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠隔地の家族には、月に1回、管理者が入居者の様子などしたためた手紙を請求書と一緒に郵送されている。又、入居者の状況に応じた対応で、週に1回の海外からの電話の取次ぎや季節の絵手紙受信支援などを媒介として報告に繋がられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	同意を得る書類への相談・苦情の窓口などの記載はもちろんのこと、意見箱の設置や機会ある毎の声かけなど取り組まれていると同時に、家族の伝えにくい心情も十分理解されている。そこで、苦情がないことに満足されることなく、サービスの向上を目指して着眼されたのが外部評価の家族アンケートである。		調査機関で受託している事業所の全てのアンケートを一括して統計・分析した結果をフィードバックしてもらえないかという提案が出された。更に、結果はグループホームに共通した苦情の傾向として真摯に受け止め改善に活かしたいと熱心に訴えられた。内情に添える協力の確約は一調査員には出来ないが実現に期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	業務のマンネリ化防止とOJT(職場での働きながらの学習)を意識した職員の視野の拡大・経験の拡張を目的に職員の能力・現状に応じた異動を運営に取り入れられている。尚、入居者への影響も十分理解されており、入居者へのダメージも最小限に抑えられるように職員のチームケアの充実と補てん配置に心がけられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内外の職員の段階に応じた計画的研修の受講とホーム内の年間計画に沿った学習会開催でニーズに応じた職員育成に努められている。又、職員の資格取得にも惜しまない協力体制で支援されている。選定職員参加の研修会など受講後は報告書の作成と伝達講習などで情報の共有に繋がられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保地区グループホーム連絡協議会中部2区は職種別の勉強会などを通して活発な交流が展開されている。又、ネットワーク作りにも同業者以外に医療関係者や保健所なども巻き込んだ取り組みをされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービス利用からの入居者が多く、馴染みの関係と継続した支援を心がけられている。又、入居されてから着かれるまでのひと月ほどは職員が付き切りの対応で信頼関係作りに努められ、入居者、家族、職員が安心・安定の距離を保てるように図られている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>まずは、入居者の思いを受容して様子を見ながら、入居者の呼吸に職員の呼吸を合わせ、共感したケアサービスの提供に繋がれている。アロママッサージや朝・夕の足浴など入居者とのコミュニケーションを大事にした1対1の対応で提供されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントに本人の意向や言葉を記入するセンター方式を花水木流にアレンジして取り入れられている。発語のない方など把握困難な場合は、繰り返しの働きかけと観察を通しての入居者の思いや意向に沿うよう努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>『ケアの指針はケアプランから』を根底に入居者の意向をプランに繋げるように努力はされているが現実的には難しいのが本音である。アセスメントからプランへ、3ヶ月の実施を通して見直し、再アセスメントの繰り返しで入居者がより自分らしく暮らし続けることができるような支援に繋がるケアプランの作成を心がけられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは基本的に3ヶ月に1回であるが、変化時の随時の見直しやひと月毎のモニタリングは必至である。又、個人記録は生活提供記録とプランに沿ったモニタリング記録(青色表示)がされており、入居者の現状に即したケアプラン作成に反映されている。</p>		

サポートピア 花水木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経済的には自立されているが身寄りのない方の受け入れなど親身な対応をされている。又、入居者・家族の要望で長期入院の回避や往診対応など医療との連携も手厚くされている。地域の方の要望に、独自で介護教室を開催され、(介護保険の話) (認知症との関わり方) (在宅介護の悩み・相談受付) など管理者の能力を活かして地域に貢献されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝、嘱託医療機関の看護師から電話が入り、入居者のバイタルなど健康面に関する情報伝達がホーム職員からされている。又、週に1回歯科衛生士による口腔ケアの充実が図られている。嘱託医とかかりつけ医との連携は、受信時に必要な報告書の作成・情報提供で双方向の取り組みの支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、(本人の希望) (ホームの能力を理解した上での家族の希望) (嘱託医の協力範囲内) の3点が揃った上で、状況変化に応じたその都度の話し合いや、必要に応じた段階的な合意などの取り組みを踏まえて支援されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを広義な範囲で捉えられており、本人のこれまでの生活・社会環境の延長を可能な限り提供されており、集団の中にも個別性を大事にしたサービスの提供である。又、記録物などの個人情報の取り扱いにも注意を払われ、特定の場所で保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホーム生活の流れの中に、本人の生活習慣を取り入れられ、起床や就寝、食事時間帯など可能な範囲で提供されている。又、毎朝・夕の足浴ケア時の職員と入居者の1対1のゆったりしたかわりの時間に、コミュニケーションやふれあいを通して本人のその日の意向や気分などの把握をされている。		

サポートピア 花水木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食生活にかかわる作業を細分化され、火を通す食材の下準備や下膳、お茶注ぎ、盛り付け、配膳、テーブル拭き、茶碗洗いなど入居者の能力や意欲を活かして職員との共同作業に繋がっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の入浴支援である。入浴支援の良し悪しを回数ではなく、本人にとっての満足感と爽快感、清潔保持に重点を置かれている。清潔保持の方法としてシャワー浴や清拭、手指浴、足浴、陰部洗浄などで提供されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族の訪問が入居者・家族にとって張り合いに繋がるような外出支援や外出支援を心がけられている。又、島原からトラックで野菜などの移動販売に定期的訪問があるので職員と一緒にホームの駐車場まで買い物に出かけられ、近隣の買い物客と交流されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り戸外に出て外気にふれられるような支援を心がけられている。又、外出後本人から「次はどこに行く」と催促されるような外出誘導とその日の安眠に繋がる提供である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアの施錠はリスクを回避する観点から会社社長の方針である。施錠はされているが入居者の希望や外出の傾向を察知したら職員のさりげない声かけや見守り同行で入居者に拘束感や束縛感、不安感を与えないよう配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・避難訓練は定期的に関連機関と合同で取り組まれており、自治会にも見学参加の要請など取り組みをされているが、自然災害までを想定した対策には至っていない。		自然災害時の対応手順や関連機関への連絡体制、持ち出し品リストや備蓄品などライフラインに繋がる取り決めなど明文化されることが望まれる。

サポートピア 花水木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身近に栄養士資格者がおられ、メニューのチェック・指導を受けられている。又、入居者の罹患内容での食事提供指示も受けられており、食事面での健康管理もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年の会社のスローガンが【清潔保持と環境整備】で、それに準じた共用空間づくりを心がけられている。ソファや椅子なども入居者の動線を意識した配置で共用の場に集いや独り居が選べる環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室からは、本人の生活歴や趣味、性格、個性などが感じられ、調度品なども本人が生活しやすい配置・配列になっている。		